

CD 2	10	東京スカイツリーの秘密	瀧井宏臣	48
CD 1	9	わざわざ書く	宮沢章夫	42
CD 1	8	隣人訴訟事件	後藤昭	38
CD 1	7	大根を半分	沢木耕太郎	32
CD 1	6	脳のはたらきを目で見よう	川島隆太	26
CD 1	5	ブブツケ	梅棹忠夫	24
CD 1	4	シンプル	山本昌代	20
CD 1	3	やっぱり敬語が必要なわけ	橋本治	16
CD 1	2	お母さん みんなで食卓を囲む幸せ	よしもとばなな	12
CD 1	1	中身当てクイズ	佐藤雅彦	8

CD 2	CD 2	CD 2	CD 2	CD 2	CD 2	CD 2	CD 2	CD 2	CD 2
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11
枕草子 <small>まくらのはら</small>	蓬萊の玉の枝 <small>ほうらいのたまのえだ</small> — 「竹取物語」 <small>たけとりものがたり</small> から —	「春」の息吹 <small>はるのいきぶき</small>	字のないはがき <small>じのないはがき</small>	雨傘 <small>あまがさ</small>	さかさに地図 <small>ちず</small> をながめてごらん	三十秒と三分 <small>さんじゅうびようさんぶん</small>	新社会人劇場 <small>しんしゃかいじんげきじょう</small>	吟味 <small>ぎんみ</small> された言葉 <small>ことば</small>	天井裏 <small>てんじょううら</small>
.....
清少納言 <small>せいしょうなごん</small>	阿辻哲次 <small>あつじてつじ</small>	向田邦子 <small>むこうたのくにこ</small>	川端康成 <small>かわばたやすなり</small>	小松左京 <small>こまつささきやう</small>	阿刀田高 <small>あとうたかし</small>	倉本聰 <small>くらもとさとし</small>	大江健三郎 <small>おほえけんざぶろう</small>	村上春樹 <small>むらかみはるき</small>
.....
92	90	86	80	76	72	66	62	58	54

02

「情報がない、という情報」

よく、「便りが無いのはいい便り」ということがいわれます。それは、特に知らせるような変化もなく、平穏無事に暮らしている時には、便りのやりとりを特にしない、という意味あいです。この場合、便りが無い、つまり「情報がない」ことが無事暮らしていることの「情報」のひとつになっているのです。



そして
それから間もなく、
一人のカップが
「あっ わかった！」と
静かに手をあげました。
さてそれは
誰だったのでしょうか。

5

1

この漫画では、3つのカップたちが難しいクイズに頭を悩まします。

一見、情報が多いのは一番上の段にいるカップのように思われます。しかし

——正解はまん中のカップなのです。

まん中にあるカップは、ある時、誰からも答えがでないという状況を「ひとつの情報」だと気づきます。

もしも、まん中の自分がコーヒーなら、上の段のカップは、前2人がコーヒーなので、自分はミルクだとわかるはず。一番上の人が答えを出せないということは、つまり、まん中の自分はコーヒーではない、ということの証しなのです。このように「情報がない」ことが「情報」になり得ることが時々あります。

1

5

10

出典 『ブチ哲学』（マガジンハウス・二〇〇〇年刊）

著者紹介 佐藤 雅彦（さとう まさひこ）

一九五四年、静岡県生まれ。メディアアクリエーター。著書に、『ねっとのおやつ』（マガジンハウス）、『毎月新聞』（毎日新聞社）など。

2

お母さん

みんなで食卓を囲む幸せ

よしもとばなな

暮らしの中の幸せとは何かを書いたエッセイ

03

みなさんの想像通りに私はよく食べるお母さんで、子どもにはほとんどない食いしん坊と思われている。

子どもが食べ物を粗末にするとすごく怒るし、よく作りよく食べている。

子どもは豊かな時代に生まれ、ちよつと外出すればなんでも安く売っているから食べ物のありがたみがちよつともわからない。

* うらやましくも思うけれど、切なくも思う。

私は戦争を経験した親から生まれているので、食べ物を粗末にするなんて設定はもともとなく、毎日の食事があって当然と思うこともできない。



1

5

問1 何が、どうして「わからない」のか。
 囲む
 ↳ 通り
 とんでもない
 食いしん坊
 粗末にする
 ちよつともない

問2 なぜ「うらやましく」、「なぜ」切なくも思う」のか。
 設定
 もともとない

104

この、食べ物を貴重に思う気持ちだけは子どもに伝えていきたいと思う。

そして、家にあるものを、その家の人やさっと調理して毎日おいしくいただくこと以上のごちそうはない、そのことになるべく早く気づいてもらえるよう育てていきたい。

世の中にはいろんな誘惑やまやかしや楽しみがあるけれど、**真実は結局ひとつしかない**と私はもう知っている。

おうちごはんがしっかりとあってこそ、外でたまに違う世界を見るのが幸せなのだ。

私の母は戦後に結核を経験して、みんなから栄養のあるものを食べなさい、とあまりにも言われ、病気で食欲もないのに高カロリーのもを食べさせられて、とてもつらい思いをした。

そのせいで、ほとんどのものを食べないお母さんだった。

お母さんは食べないなあ、というくらいにしか思っていなかったつもりだった。

しかし高齢になって入院がちになり、退屈な気持ちも手伝ってか多少ぼけが

はじまっているからか最近の母はよく食べるのだ。

15

10

5

1

貴重な
さっとする

調理する

く以上の…はない

ごちそう

誘惑

まやかし

問3 「真実」とあるが、何か。

結局

くしかない

問4 「おうちごはん」とは、どんな

ものを指しているのか。

戦後

結核

経験する

栄養

食欲

高カロリー

問5 誰が、どうして「つらい思い」

をしたか。

せい

くがち

退屈な

くが手伝って

ぼけ

「お母さんがおだんごを食べてるところを初めて見た」

「お母さんがとろろを食べてる！」

「信じられない！」

姉と私はよくそう言い合う。

そして気づく。

私たちは母になにか食べてほしかったんだ、実はずっと食が細いことを心配

したり、悲しんだりしていたんだ。

食卓で幸せそうでないことが切なかつたんだ。

母の人生ももう最後の章に近づいていて、みんなで食卓を囲む幸せを、やり

なおしている。

* そんな機会が来たことをしんみりと、ぼんやりと、しかし温かく心に抱いて
いる。

1

だんご
とろろ
言い合う
気づく

5

問6 このときの姉妹の気持ちは、
どうか。

問7 何に「気づいた」のか。

食が細い

10

問8 「最後の章」とあるが、どうい
うことか。

やりなおす

問9 「そんな機会」とあるが、どん
な機会か。

しんみりと
ぼんやりと